

東地申第1号

12月6日 第2回交渉—その4

「JR東労組東京地本第34回定期大会発言」に基づく申し入れ

7. 睡眠日誌導入を中止すること。

会社回答 眠気を予防する観点から、睡眠習慣を振り返るツールとして睡眠日誌の活用を懲慥していく考えである。

東京支社として3点を回答し、確認!

**規則正しい睡眠と、良質の睡眠をとるための
環境整備を、できる所からやっていく!
睡眠日誌は強制するものでない!! 眠気防止の
ツールとして活用すべきものだ!
プライベートな時間まで管理するものでない!!**

主な議論内容

組合 現在、乗務に臨む姿勢が弛緩していることは認識しており、我々も職場で議論を行っている。そうは言っても乗務員も人間であり、眠気防止のための立ち席運転やガムを噛む行為を行うことを乗務員室に表示したり、公表することも今後議論が必要だ。

第7項終了!

8. エルダー再雇用先の決定・提示については、国鉄改革を通じて会社の基盤を創り上げた国鉄採用組合員の持つ知識・技能を活かせる場とすること。
また、再雇用提示先については、「今後の雇用の基本に関する覚書」(平成12年3月1日締結)の趣旨に則り本人の意向を尊重すること。

会社回答 エルダー社員の持つノウハウ等を活用し、グループ会社等の業務運営や人材育成、技術継承を進めるというエルダー社員制度の趣旨に変わりはない。

また、再雇用後の出向会社については、本人の希望する職種等を前広に把握した上で、業務経験や知識、技能、適性等を総合的に勘案して会社が選定し、提示するものである。

主な議論内容

組合 エルダー本体勤務枠拡大について、本部—本社間で「エルダー社員の会社における業務範囲拡大と労働条件の一部変更」を妥結したが、議事録を結び次第、東京支社に申し入れを行いたい。そして、来年4月以降の運用をめぐり具体的なスケジュール、説明の仕方も含めて会社の考えを聞きたいと考えている。

会社発展の功労者である組合員に対し、本人の経験を加味した希望や意向と相反した出向先を提示し、事務的で人間味のない面談が行われたことは、絶対に忘れない。この行為は、国鉄改革を否定する行為であることを明確にする。

会社には、本人の経験を加味し希望や意向を合意の上で進めてもらうことを要望する。国鉄改革を真面目に担った組合員の働く意欲の向上を目的に、労使の認識を確認した上で、運用とスケジュールについて議論していきたい。

会社 現場には勤労速報を出したが、現場長にも速やかに説明したい。これまでの努力に対しての会社としての判断と労使議論の結果として、エルダー社員に対して基本賃金増額・精動手当増額となった。会社もエルダーの皆さんの技術継承・技能伝承に期待している。

組合の指摘は真摯に受け止めたい。国鉄改革を担ってきたからこそ今日の会社がある。会社としても丁寧な対応をしていきたい。しかし、時間感は遅れており、グループ会社には待ってもらっている状況だ。速やかに会社間の整理を行っていききたい。

第8項終了!

第2回交渉をもって、申1号交渉は終了!

東京地本は今後も「労使共同宣言」「東京労使宣言2002」の趣旨を踏まえ、会社と信義・誠実に議論し、労使で人間尊重、安全・現場第一主義の職場風土と健全な職場の構築に向けて奮闘します!